第 17 回日本外来小児科学会 予防接種委員会 議事録

日　時　　2015 年 3 月 22 日（日）12 時 00 分〜15 時 00 分
場　所　　ホテル新大阪　東口ステーションビル
出席者　　岡藤隆夫、落合　仁、武内　一、田原卓浩、中村　豊、宮崎千明、牟田広実、
　　　　　横田俊一郎、渡辺　博、藤岡雅司、永井崇雄（11 名）
欠席者　　太田文夫、寺田喜平、宮田章子、吉川哲史（4 名）

［報告事項］

1. 昨年の第 24 回年次集会（大阪）について
   ・藤岡会長の総括が行われた。

2. ムンプスワクチンによる無菌性髄膜炎発症の年齢別リスクについて
   1) 本学会の調査（牟田）
      ・調査結果を 3 月 14 日の“予防接種に関する研究報告会”で発表した。
      ・3 歳以上と比較した 3 歳未満の相対危険は 0.23　（95%CI 0.055-0.95）だった。
      ・日本外来小児科学会年次集会および日本ワクチン学会年次集会で発表予定である。
   2) VPD の会の調査（藤岡）
      ・ネット上でワクチン後髄膜炎発生頻度を調査する予定である。
      ・研究方法は大阪市立大学医学部の倫理委員会で承認されている。
   3) 小児科医会の調査
      ・三重県で調査継続中である。
      ・兵庫県は本年 1 月から開始した。

3. 水痘ワクチンの有効性調査について（中村）
   ・調査は 1 月末で締め切り、協力医療機関は 72 施設、症例登録は 1125 例だった。
   今後データのクリーニングをするので症例数は減少する。
   ・ワクチンの有効性、ワクチン接種の感染率への影響、緊急接種の有効性、発端者のアシクロビル内服の感染率への影響についてデータを解析していく。
   ・アシクロビル内服の評価、予防内服の有効性の評価を行うかは検討中である。
   ・重症度の評価はしていない。
   ・日本外来小児科年次集会および日本ワクチン学会年次集会で発表予定である。
   ・定期接種開始後の調査については今後検討していく。

4. 学童期からの予防接種教育の教材作りについて（落合、太田、武内）
   ・昨年に引き続き年次集会にてワークショップを開催する。
   タイトル：小学生・中学生に予防接種を知ってもらおう！！ PART 2

5. 会員の予防接種の意識調査、実態調査について（牟田）

・論文が外来小児科誌（外来小児科 2014; 17: 301-309）に掲載された。

6. 厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会（各部会）、日本小児科学会予防接種・感染対策委員会報告　（宮崎）

1) HPV ワクチン

・協力医療機関および専門医療機関の一覧公開

・HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き編集へ（日本医師会・日本医学会編）

・勧奨再開の見通しなし。

・米国 ACIP（2015.2）で 9 価ワクチン推奨

2) HB ワクチン

・小児における水平感染率の推計（須磨崎班）

・平成 28 年度から予定されている定期接種（12 か月未満児、標準的には 2 か月~3 回接種）開始にあたり、小児科学会として接種対象外となる児へのキャッチアップ接種を要望していく。

・ワクチンの互換性の調査は継続中である。

3) ロタウイルスワクチン

・腸重積（背景発症と接種後）調査、日本における疫学的効果　⇒ファクトシートへ

4) 10 価肺炎球菌ワクチン（シンフロリックス）の取り扱い（3 月 26 日製造承認）。

・定期接種化や PCV13 との互換性は今後の検討課題。

5) 筋肉注射

・標準的な筋肉注射の手技等の提示を日本小児科学会が予定している。

6) 他のワクチン

・狂犬病：国内供給が不足しているので海外ワクチンを導入予定。

・DT の DPT 化は各メーカー治験が進んでおり、一部は治験が終了しているので今後の動きに注目

・MMR ワクチン導入に向けての動きがある。

7) その他

・副反応報告は PMDA へ

・新規導入ワクチンによる入院数（費用）や乳幼児医療費削減効果の検討

・HTLV-1 母子感染予防（森内）

・乳幼児突然死症候群疫学調査（症例対象研究：多屋）

・学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説改訂

・日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール・キャッチアップスケジュール

・病院・福祉施設実習生の抗体検査・ワクチン接種等⇒日本環境感染学会編「医療関

係者のためのワクチンガイドライン第2版2014」準用

7. 日本小児科医会予防接種委員会、リスクマネージメント委員会報告（横田）
   1) 予防接種推進専門家協議会報告
      ・B型肝炎ワクチン接種年齢は予定されている2, 3, 7-8か月では米国で接種したとみなされないため、2回目と3回目の間隔を5か月以上とすることを要望していく。
   2) HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究について
   3) 三種混合ワクチンの供給
      ・三種混合ワクチンが無い場合には法律的（予防接種実施規則第二章）に四種混合ワクチンを接種しても問題ない。
   4) 日本小児科医会総会フォーラム（大分県別府市）
      ・2015年6月14日に予防接種のシンポジウムを開催する。
   5) 「予防接種・子どもの海外渡航」合同研修会
      ・2015年12月開催予定である。

8. 神奈川県予防接種研究報告
   子宮頸がん予防ワクチンにかかる県の対応について
   ・因果関係が究明されない中で支給対象の可否を判断する基準について検討された。

9. 予防接種システム検討会について（藤岡）
   ・平成26年度の開催なし。存続を検討中である。

10. "FluMist"の国内臨床試験について（落合）
   ・2歳～6歳を対象とした安全性試験は三重県内の3施設において実施。
   ・2月に保護者からの聞き取り調査が終了し、現在カルテチェックが行われている。

［協議事項］

1. 2016年の年次集会（高松）のプログラムについて
   メインテーマ　"僕らの身近にあるエビデンスを見つけよう"
   サブタイトル　"子どもの診療をリサーチに結びつけるために"
   ワクチン関連の講演や予防接種委員会の主催するシンポジウムなど多く用意する。

2. 学童期からの予防接種教育の教材作りについて
   今後の進め方：年次集会ワークショップにおいてリーダー3名が各自冊子を事前に準備し、ワークショップ当日発表し検討する。

次回開催予定：2015年9月～11月の開催を目途にメーリングリストで調整する